

# 精華町最高峰「嶽山」にいだかれた里

## 行く先々の歴史と文化財の謎を訪ねてウォーキング

スタート地点: 東烟集会所



専光寺から光台方向を望む



## ★すたーと地点(東畠集会所)までの交通手段

- ・近鉄山田川駅発⇒⇒⇒「精華くるりんバス 祝園駅西口行き」⇒⇒⇒⇒⇒東畠口下車
  - ・祝園駅発⇒⇒⇒⇒⇒「精華くるりんバス 山田川駅行き」⇒⇒⇒⇒⇒東畠口下車
  - ・祝園駅発⇒⇒⇒⇒⇒「奈良交通41系統 学研登美ヶ丘行きバス」⇒⇒光台八丁目下車
  - ・祝園駅発⇒⇒⇒⇒⇒「奈良交通36系統 祝園行き循環バス」⇒⇒⇒⇒⇒光台八丁目下車
  - ・学研登美ヶ丘⇒⇒⇒⇒「奈良交通41系統 祝園行きバス」⇒⇒⇒⇒⇒光台八丁目下車  
「東畠集会所」までは、「光台八丁目」停留所から徒歩10分・「東畠口」停留所から徒歩5分

## 東畠集会所（東畠分校跡）



東畠集会所

大正10年、この場所に山田荘小学校の東畠分校として開校されました。

分校には小学4年生迄。5・6年は本校へ8kmの道を通学しました。当時の分校の児童数は94名、教員2名、裁縫専科1名の授業でした。



東畠集会所にある分校跡地の碑

### 長年の夢を見て

平成5年3月31日 山田荘小学校東畠分校は廃校。

平成5年4月 6日 東畠分校生徒は校区が変わり、  
1年生から6年生全員が東光小学校  
へ登校することになりました。

## 東畠墓地



東畠墓地

東畠地区は、全戸が真宗大谷派専光寺の檀家であり、死者の送り方や埋葬の仕方など独自のやり方で行なわれています。

随分前から火葬が普及し、村単独で火葬場や葬式車を持ち管理されています。細いソウレンミチ（葬式道）の奥に共同墓地と火葬場があります。



俱会一處の墓石

死者が出ると、子供や孫が白装束に身を固め、コシカキとなって葬式車をひき、厳かに列をなして墓地にある火葬場まで送り届けます。かつては、露天で割り木を用いて火葬が行なわれていましたが、明治末年頃に火葬場が造られ、身内でないカイトの3人組（隣近所）の人たちの手で行なわれるようになりました。

墓地に入ると、『俱会一處』の文字が目に入りますが、これは、浄土真宗のお経の一説で、先祖とまた、同じ浄土へ往生させていただくことを喜ぶ姿とされています。

## 鳥谷池 力ニマ池



鳥谷池

昔は陸の孤島と言われた山間僻地「東畠村」の人々は、命を繋ぐ一番大切な水の確保に相当なる、知恵と労力を注いでいました。

◎ 生活用水・・集落各地に井戸を掘り、共同井戸とした。

◎ 灌溉用水・・溜池を作り、全ての農業用水を貯った。

東畠村の溜池(江戸時代)

溜池は村有池・共同池・個人池の3通り有り、大小合わ

せ多数の溜池が存在しました。とくに煤谷川の源流である「鳥谷池」&「カニマ池」は村有池として活躍、村民の生活を潤わせました。

溜池では鯉や雑魚を飼い、祭の日などに食して楽しみました。

又、東畠の人たちは農業閑散期などに、高度な溜池造成技術をもって生駒の北田原の方など、他村の溜池造りや、修繕をしていました。



カニマ池

## 嶽山



鳥谷池の先から嶽山を望んだところ

嶽山は精華町の西端、京田辺市(打田)との境界にある精華町最高峰(標高259.5m)の山です。

頂上へは、整備された道はありませんが、横たわる枯れた竹や木を潜ったり跨いだりしながら、下の町道から10分余りでたどり着くことができます。

頂上には、東を向いた東畠の石仏と、それから少し離れたところに北を向いた打田(京田辺市)の石仏が鎮座しています。2つの石仏は、あの頂から



頂上にある東畠の石仏(左)と打田の石仏(右)

それぞれの地域の人々の安寧を遠い昔から見守ってきました。

頂上からは、竹林が密集していて、残念ながら下の景色を眺める事はできませんが、視界を遮るものを取り除くと、きっと学研都市はもとより、大仏殿や若草山等が手に取るよう見える素晴らしい眺望が開けるものと思われます。

## 専光寺

東畠の集落内を【嶽山】に向かって煤谷川を遡ると、平安末期(近衛天皇)康治2年(1143)に創建されたと伝えられる【専光寺】があります。当初【真言宗】であったが、室町末期(足利義輝)永禄3年(1560)に、僧教信によって惣道場として開かれた【浄土真宗】の寺です。

その後、本願寺が東西に分かれるに当たっては西本願寺に属したが、慶安4年(1651)に東本願寺に転派しました。その理由は、西本願寺が財政困窮したため、専光寺への賦課が多大のためと伝えられています。



専光寺山門



阿弥陀如来立像

元禄16年(1703)の檀家98軒の連判状が【専光寺】に残されています。

なお、このお寺の本堂からは、表紙の写真の通り奈良東大寺が一望できすばらしい眺めです。

開 基:僧 定賢  
創 建:康治二年(1143)癸亥(ミストイ)九月十五日  
宗 派:浄土真宗 大谷派  
本 山:京都 東本願寺  
本 尊:阿弥陀如来立像 1軀

## 東畠神社



東畠神社鳥居

創始は明らかではないが、御神域の老桧・杉等の樹齢からみて相当古く、約五~六百年程以前と推定されます。石灯籠の古いものは明和4年(1767)と刻石されています。

御境内地、1,268坪で、御本殿は、前面の破風の下から向拝が出て、屋根に反りを付け、二本の柱で支え、周り縁を廻らし、その前に階段をつけた春日造りで、奈良から近畿地方に多く、現殿は、文政三年辰年八月(1820頃)御改築上棟されたものです。《神社案内板より抜粋》

御祭神  
本社 素盞鳴尊(すさのおのみこと)  
末社 水神社 美都波女神(みずはのめのかみ)



東畠神社 本殿



水神社

## 白土採掘跡



今も残る白土採掘跡の横穴

白土は、主に磨き砂、精米、研磨剤、セメントの混合剤、製陶の材料などに使用されました。表層が荒粉、中粉、極微粉と、およそ三段の層になっています。東畠では、江戸時代後期に百姓から採掘願いが出され、採掘が始まっています。

(広辞苑には、火山灰・火山岩の風化した土で、主成分は二酸化珪素・珪酸アルミニウムで壁画や建築の塗料、製陶の材料、また、セメント混合剤にするとあります。)

富士山の火山灰の房総半島では、大規模の採掘事業所がありました。代替の商品が出てきて昭和44年(1969)操業が終わっています。

東畠では、少し早く昭和24～25年(1949～1950)頃に終っています。房総半島では、4～5mある火山灰の下部1～2mの質が良いとされています。

東畠から田辺町普賢寺の湖沼地帯が沈殿して厚い層になっています。

東畠では、業者は6戸があり、農業と並ぶ財貨獲得の大きな収入源でした。しかし、採掘、製品化、運搬等々は、それぞれ大変な作業でもありました。当時は、多くは菅井の浜からの積出でしたが、大八車での運搬のため南稲八妻の峠は、大変でした。菅井の浜の高等小学校(11～14歳)に通う学童たちも通学時に協力しました。

(精華町の史跡と民俗、千葉県岬町史など参照)

## エチケットを守りましょう！

- ☆ 交通ルールの遵守
- ☆ ゴミは捨てずに持ち帰る
- ☆ 通り道の草花は絶対に摘み取らない
- ☆ トイレ等へ行ったり、途中で帰る場合は  
必ず引率者に連絡する